

～ 地域コミュニティ形成の事例からみた  
域での合意形成手法(津島町)～

- 合意形成の目標は  
「地域コミュニティは必要である」ということ  
(共感できるテーマである必要がある)
- 社会的背景  
少子高齢化                      自分たちの生活に  
市町村合併                      対する不安
- 自分たちが当事者になる。自分たちが動か  
ねば

ではどうしたらいいのか？  
みんなで調べてみよう。

- コミュニティ維持に必要な活動は(住民ニーズ)  
解決すべき生活課題(こまりごと)の抽出  
(住民によるヒアリング、KJ法による分類)
  - ・生活に関する不安  
(独り暮らしが不安、ゴミが出せないなど)
  - ・高齢者、児童、障害者、DVに関すること等

## 聞くためには、そのノウハウは？

- 聞き取りの仕方の研修

親密な関係づくり

話したい気持ちにさせる雰囲気づくり

聞き手の姿勢(聴くと聞くの違いなど)

話の間の援助(あいづち、納得、賞賛、  
慰め)

確かめる(…ですね。…ですか。など)

## 聞き取り調査表の作成

- フィールドノートをとりながらを目指したが、あえなく失敗
- メモを取りながらでは相手の話が引き出しにくい。聞いた後でまとめることとした。

□聞き取り調査表

聞き取り調査表			
ア・オー・エル			
年次	地区	職業	調査項目
姓	名	氏名	話を聴くことができること 録音機関等への要望

氏名・所属機関に記入すること 所在地に記入すること 所属機関に記入すること 話し手が記入すること 必要に応じて  
記入すること 所属機関に記入すること 必ずしも



## もやいの設立へ

- 箱物は社協(津島町の支援)で
- 運営は地域住民で(協働)  
地域福祉リポーターを中心とした運営  
委員会の創設と地域への働きかけ
- 事業内容の検討  
ふれあいの場、学びあいの場、  
相談の場、ボランティアコーディネート  
の場など



## もやいの具体的運営

- 住民自らが考え、行動する委員会設立
- ボランティアで必ず1名が滞在
  - 住民が制約なく集う
  - 0歳～100歳まで(赤ん坊、小学生、中学生、高校生や障害者も)
  - 平均25名/日の利用
  - ボランティアの人柄による居心地のいい空間

## もやいの具体的運営

- ふれあいの場
  - プログラムを作らないことがルール
  - オープンしている間は誰が来てもいい
  - いただけいていい
  - 誰かが話を聞いてくれる、話をしてくれる

## もやいの具体的運営

- 学びあいの場
  - この指とま～れ講座  
(運営委員会の企画講座)
  - ・俳句会、地域通貨、手話、まちづくりなど
- もやい講座
  - (自然発生的な講座(住民が講師))
  - ・花はともだち(生花)、押し花教室
  - ・囲碁教室など



## 活用の効果

- 家族のような関係づくりができた  
(自分はひとりではない)
- 自分を見つめなおす場ができた
- 介護予防の場ができた  
(生きがい、健康づくり)
- ボランティア等支え合い意識の啓発の場  
ができた
- 情報の伝達・集積の場ができた
- 相談の場ができた

## 今後の課題

- 活動の継続性と地域コミュニティ形成への  
積極的関与 (きっかけから醸成へ)
- 地域の人材育成
- 安定した運営財源の確保  
支え合い会員、フリーマーケット  
廃品回収、
- 他の地域への波及  
(自主的な管理運営へ)  
くつろぎの家のオープンへ

## ～ 住民参加型地区別 地域福祉活動計画づくり(津島町)～

### 第1段階(地域ニーズの把握)

- 1. アンケート・座談会参加者の声・日々の活動からの「気付き」を付箋紙に記入する。  
1枚につき、1つの気付きを箇条書きにする。
- 2. グループのメンバーでポストイットを1枚ずつ読み上げて、同じものを重ねてゆく。
- 3. ポストイットのかたまりを下記の表にあわせて載せてゆく。
- 4. 付箋紙のかたまりをはがしながら、文章(箇条書き)で表の中に記入する。

区分					
	・				
	・				





## 第2段階(地域ニーズの解決に向けて)

1. 表の中から、区分ごとに優先順位を決め、表の中の気付き名の欄に書き込む。
2. その気付きをどう活かすのか。或いは区分ごとにテーマ(目指す方向)を決める。
3. どのように解決していくのかなどを検討し、「いつまでに」・「だれが」・「どのように」の欄に記入する。また、その財源についても考えられることを記入する。

順位	気付き名	いつまでに	だれが	どのように	財源
1					
2					
3					



## (1) 岩塚地区

実施目標 もやいより愛をこめて～住み慣れた地域で一生を終えるために～

実施計画		実施者名：峰一男 渡部正彦 坂本真子 江藤保子 小川幸美							
実施事業名	いつ 実施年度 16.17.18.19.20	誰が	どこで	どうする(どのように取り組むか) 事業内容	何のために	対象者	財源	連携する 機関	その他
ボランティア 人材バンク	→	ボランティア会 民生児童委員 福祉推進員	もやい	人材の振り起こし 16自治会ごとに1軒ずつ聞き取り 調査をし、できることを集めて もやいでコーディネートし、 人材派遣	支え合う地域 を創るために	高齢者 障害者 その他支援を 必要とするもの		社会	
施設老人への 緊急対応への 対応	←	行政機関			一人暮らしの 老人・障害者の 不安解消のため	施設老人 受容者	?	消防署 病院	合併に伴 う行政に て検討中



▲ 実践を台座



▲ 第1回のまとめを交換する役員



▲ 第2回/実践しながら岩塚のこもやいについて計画

## (3) 御橋地区

実施目標 御橋の支え合いビジョン

実施計画		実施者名：林 光祐 嶋山商店 山口真実							
実施事業名	いつ 実施年度 16.17.18.19.20	誰が	どこで	どうする(どのように取り組むか) 事業内容	何のために	対象者	財源	連携する 機関	その他
連携を密にして 暮らす	→	住民みんな	御橋地区 全体 小学校 公民館 公民館	自治会と公民館と民生委員等 が協力して施設老人、高齢者夫 婦の家を訪問する	不安を解消する	高齢者など			自治会 社会 行政
交通・移動	→	自治会長		行政に依頼する	緊急時に対応する ため	住民	国 県	行政	
活動する仲間 確保づくり	→ → →	住民みんなが 自治行政	集会所 小学校 保育園	ボランティア、民生委員、福祉 推進員等と協力して住民全体 で取り組む。また、 特別が実施され行政に連携する	安心して 地域で暮らすため	住民			自治会 行政 社会
施設の整備 (施設・庁舎・ 建物)	→	住民みんな 行政	御橋地区全体 公民館 小学校 保育園	住民みんなが自治行政、福祉 推進員等に協力して参加する	御橋地区の創成を 後すため	住民全体			行政 自治会



▲ 第1回/御橋の課題を整理するメンバー



▲ 第2回/活動計画についてのまとめ



▲ 御橋の計画を聞く横山商店員

## 地区のまちづくりにおける合意形成に向けて

- 当事者意識を持ってもらうために
  - 共感できるテーマからスタートする(生活実感からのまちづくり)
  - だれもが意見を出しやすい雰囲気づくり(ワークショップ手法を取り入れる)
  - だれかに決めてもらうではなくて、自分たちで決める(答えがでるまで待つこと、専門家がかかわるのは、選択肢の整理やメリット、デメリットの整理程度)
  - 自分で動くことのほうが、決め細やかな対応ができることもあるということをわかってもらう(行政の論理と市民の論理、自己決定・自己責任)

## 地域課題の顕在化手法 ～松山市地域福祉デザイン塾～

### < 目的 >

- 地域住民が自ら抱えている生活課題について、自らがその解決へ取り組むことです。
- 豊かな生活環境を作り出す主役は、地域住民であり、主体的に自分の住む地域をリ・デザインしていくことです。



久米地区第1回目の地域福祉デザイン塾。座談会で地域を再確認。

### < 目的達成のために求められること >

- 地域の実情を浮き張りにする
  - 地域は、多角的に把握する必要がある
  - どんな人が住んでいるのか
  - どのようなニーズを持っているのか
- 地域においてどのようなサービスが提供できるのか
- 地域におけるまちづくりの担い手づくり

## 地域福祉デザイン塾(手法)の開発

- 松山市の32地区で組織されている地区社会福祉協議会を活用したまちづくり活動の展開
  - 原則として地区社協会長が塾長となり塾生(約10名)を任命する。
    - 座談会等の学習会を年間5回程度開催する。
    - の成果を市社協の担当者が記録・資料化し塾へフィードバックする。
    - 塾の仕上げに、塾生は調査員として1人当たり5人の地域住民に「地域福祉アンケート」を実施する。
    - 市社協の担当者がアンケートを集計し、専門家のアドバイスを受けながら報告書を作成する。

### <留意事項>

- 地域の人たちが、自分たちの地域を語るには会議の形式では難しく、袴を脱いで語り合う環境づくりが大事
- 具体的な目標を提示すること

### <具体策1>

- 地域の集会所や公園、神社仏閣、句碑、病院、社会福祉施設、小規模作業所、保育所、駅、道、池、行事、自然などをあらかじめビデオやスライドにおさめ、塾で映しながら社協職員が質問をしていく方式」(宝探し方式)
  - 手間がかかりすぎて、失敗!

## < 具体策 2 >

- 鍵穴式地域福祉台帳 づくり

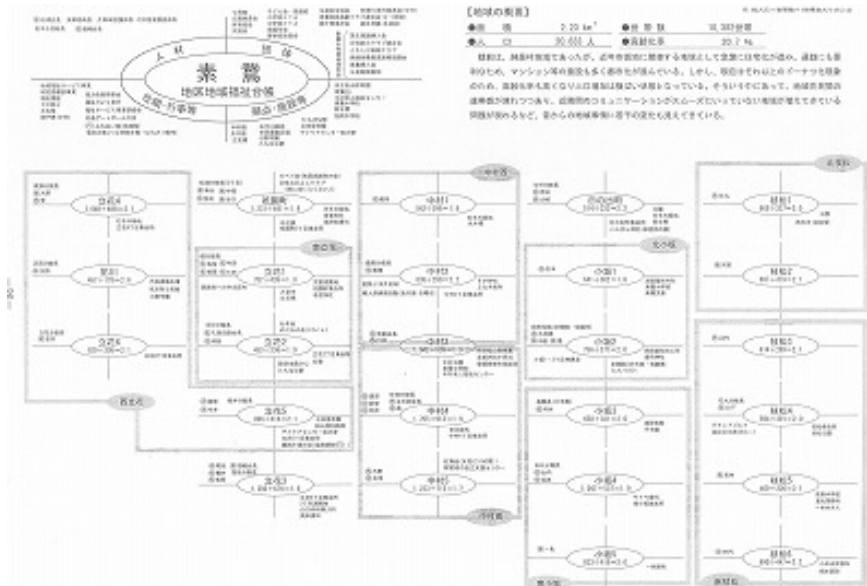
地域を網羅的に、詳細かつ具体的に表し、人目でわかるものとなっている。

地区(旧小学校区)単位で使う。

地域座談会での生の声や地域福祉アンケート調査結果をもとに、地域の社会資源を「人材」「団体」「仕組・行事等」「拠点・施設等」の4つに分類し、地域内の地区ごとにマッピングするもの。

この台帳は、地区の概要に加えて、地区内の基礎的データ(面積、人口、世帯数、高齢化率)、個別の施設や行事を書き込むことができる。

固有名詞や特別な技能を持つ人材が記入できる



• まちづくりバームクーヘン

自 自治会・町内会のエリアで使える。

それぞれの地域の特色に基づき、「福祉・医療保険・住民・自治・文化・子育て・地域振興・社会教育」などの課題となる「分野」を中心に「人材」「拠点・団体」「仕組み・催し」「課題」と同心円を書きながら社会資源をプロットできる。

これを見れば、地域社会でそれぞれの課題に応じて、自分たちでできることについて「誰が」「何を」「どのように」対応できるかが一目でわかるようになっていく。



< 効果 >

- この二つの様式は、地域との対話を促進してくれた。
  - あらかじめ主な地域の社会資源を記入しておき、間違い探しや足りないもの探しからはじめる。
  - 塾生も町内のことには詳しいが、地区全体のことには明るいとは限らない。地区の再・新発見で盛り上がったりする。
  - そのような交流から徐々に本音の意見が出始めたりしてきた。やっと地域のことが語り合えるようになってきたのである。
- 
- 塾の後の下駄箱あたりで出てくる意見が大事である。
  - 座談会では何も言わなかった塾生が、帰りがけに良い提言をしてくれたり、問題となるケースを相談してくれたりするのもこの場所と時間である。
  - このようなときに本音ができるのであろう。
  - 会議の形式になれていない住民にとっては、会議の場は語りにくい場所なのであろう。



- 地域住民の地域に対する関心を喚起し、参加できるということに大きな特徴がある。
- 学習会への参加を経て、地域のことに気付かされ、その結果、地域の社会資源を活用しようという発想をしやすいのである。

《地域住民に》求められるもの

- 自立性  
行政や企業に依存した他律的住民でなく、行政や企業から相対的に独立した「自立的な住民」であること
- 協働性  
地域の一員として行政や企業と対等な立場で「協働する住民」であること
- 利他性  
中長期的な視点を持ち、公益や公共を考える「利他的な住民」であること